日本における野球人気の復活へ向けての一考察

A study of the recovery of baseball popularity in Japan

1K10C309-9　中山遼人
主査 堀野博幸 先生　　副査 葛西順一 先生

【研究の動機，目的】

日本では国民的スポーツと呼ばれる野球であるが，近年，野球産業の人気低迷が叫ばれている．1990 年代には日本プロサッカーリーグ（Japan Professional Football League；以下，J リーグと略記）というプロ野球と人気を分かつ新たなスポーツビジネスが誕生した．J リーグのクラブ数は発足当初の 14 チームから 40 チームまで増加し, 2002 年には日本でワールドカップを開催するまでに成長した．現在でもワールドカップやオリンピックなどでの国際試合では大きな関心を集める．一方で野球は 2012 年ロンドンオリンピックの正式種目から外され, それ以降の 2016 年リオデジャネイロ，2020 年東京オリンピックでも実施の目処が立っていない．こうした現状には様々な要因が考えられ，主にプロ野球を焦点に球団経営や，メジャーリーグベースボール（Major League Baseball；以下，MLB と略記）と比較しての日本プロ野球機構（Nippon Professional Baseball Organization；以下，NPB と略記）の存在のしかたという側面から多くの研究がなされている．その中でも特に問題視されている例として挙げられることが，少子高齢化による野球人口自体の減少，スター選手の大リーグへの流出（日本球界の MLB のファーム化）やプロ野球中継の視聴率，放映権料の低下などである．日本球界の存続，反映のため，これらの問題を解消するための検証を本研究で行うこととする．

先行研究では，それぞれ組織構造と球場ビジネスという一つの視点からプロ野球産業を分析している．これに対し，多面的な要素を含めた分析を行うことで異なる知見を得ることができると考えた．そこで本研究ではプロ野球の人気を測る指標として 4 つの項目を設定し，それぞれの数値の増減を分析する．項目はそれぞれ「観客動員数」,「プロ野球中継の視聴率」,「プロ志望者数」,「将来の夢ランキングにおけるプロ野球選手の順位」とする．以上の項目の分析結果から，プロ野球人気の推移を検証することで現代のプロ野球の課題を明らかにする．またその改善方法を考察，プロ野球産業の発展に寄与することを目的とする．

【方法】

観客動員数，プロ野球中継の視聴率，プロ志望者数，将来の夢ランキングにおけるプロ野球選手の順位の項目に関して，日本プロ野球機構に関連する文献を収集，また球団職員への質問調査を行なった．

【結果】

１．観客動員数

近年における観客動員数の推移として球団ごとに多少の増減はみられるものの，日本のプロ野球全体としては大きな変化はみられなかった．

２．プロ野球中継の視聴率

2000 年頃までは 20%前後の高視聴率を記録していた読売戦であったが，視聴率低下の傾向にあることが明らかになった．これに対し，近年では頭打ちの傾向にあるが，2000 年頃から 5 年程かけてスカパーの加入率が上昇しており，読売戦視聴率の低下とスカパーの加入率の上昇の様子が一致していることが明らかになった．

３．プロ志望者数

高校生，大学生共に近年のプロ野球志望者数は若干の減少傾向がみられ特に大学生にはその傾向が顕著にあらわれた．

４．将来の夢ランキングにおけるプロ野球選手の順位

1989 年から 2012 年までの 24 年間のランキングにおいて，野球選手の順位は多少の変動はあるものの常に上位をキープしており下降傾向はみられなかった．

【考察】

調査の結果，野球人気の要因となる事柄については項目ごとに人気低下の傾向がみられその課題が明らかとなった．

観客動員数とプロ野球中継の視聴率の推移から分析した野球をみる側からの課題としては，メディアには見切りをつけ球場での収入に重きを置く方向に変えていくか, メディア向けに野球のスポーツとしての特性を変えていくか，どちらかへのシフトが必要になることが挙げられる．その際に，MLB の球団運営として球団所有の球場においてのボールパークとしての経営は参考になると言える．メディア（テレビ）向けに野球のスポーツとしての特性を変化させることは現状では難しいと言える．